



『松本まるごと博物館』プロジェクトによる合同ポータルサイトを構築・運用

長野県松本市で推進されている『松本まるごと博物館』は、地域全体を「屋根のない博物館」としてとらえ、文化施設や自然環境、史跡・遺産などを有機的に結びつけることで地域の振興を目指すという先進的な構想から生まれたムーブメントだ。プロジェクトの重要な一角を占める合同ウェブサイトに構築に、博物館専用の地域コミュニケーション促進システム「ミュージアムICT」を活用。複数の博物館によるポータルサイト運営は、ICTを活用した地域活性化の好例として注目されている。



合同ポータルサイトの構築を担当した松本市立博物館学芸員のノ瀬幸治氏（左）と松本市教育委員会文化財課の竹原学氏

ICTを駆使した地域活性化の好例として注目されている

「博物館王国」と呼ばれるほど博物館が多数ある長野県の中でも、松本市は常にその活動をリードする土地柄だった。『松本まるごと博物館』プロジェクトは、これに加えて1970年代にフランスで誕生したとされる「エコミュージアム」の考え方を取り入れ、地域活性化と博物館管理運営のあり方を見直すことで学習環境を整備し、観光客誘致にも貢献しようとする意欲的な試みとしてスタートした。このプロジェクトの大きな特徴の一つ

は、中核施設と位置づけられた松本市立博物館を中心に、計13の施設が協力して、専用のポータルサイトを構築したことだ。博物館専用の地域コミュニケーション促進システム「ミュージアムICT」を導入し、システムが実装するウェブツールを活用することで、各館の収蔵品情報を統合的に配信するだけでなく、市民参加性の強いコンテンツを多数公開している。行政・館側の発信情報と市民側からの投稿情報をバランスよく共存させることで、地域住民と行政が手を取り合って地元の発展を目指していくことができる。また、集客に苦しむ

ことの多い博物館施設がその専門力を結集する形でアプローチできるため、コストと労力をかけないプロモーション施策となる付随効果も期待されている。

プロジェクトの構想から実践へ 市内一丸となった取り組み

プロジェクトの枠組みは、00年にまとめられた構想がベースとなっている。当時、松本市と松本市教育委員会で作成した冊子を通じて市民らに発表した計画では、何かと「縦割り」が指摘される行政システムの中で「博物館」をテーマに横断的なプロジェクトに挑むことが宣言されており、広く関心を集めた。

構想に盛り込まれていた「市内の博物館各館の活動を取りまとめる」というアイデアは画期的なものではあったが、松本市、教育文化振興財団など管轄の違い、多忙を極める運営現場の余力不足などもあり、実現までにはさまざまな課題をクリアする必要があった。

活動が本格化する契機となったのは、05年、「松本まるごと博物館構想」に基づく「松本市基幹博物館基本構想」が市のホームページで公表されたことだった。当時、松本城の史跡内にある市立博物館の移転計画が持

ち上がり、これに伴い市内博物館の公共施設としての機能と将来像が改めて議論されることになった。

こうして『松本まるごと博物館』プロジェクトが本格的にスタートして複数の博物館による連携事業などが増えたが、館が扱う収蔵品の分野の違いや各館で設定された市民貢献の役割の差異などがネックとなり、統合に向かっの調整作業はかなり困難を伴ったという。

しかし、館の相互理解と意識統一は徐々に進んだ。松本の伝統的な「七夕人形」を街中に広めるために複数の館が人形の掲出やバナー広告で統一感のあるPRを行い、松本市立博物館と考古博物館による特別展「折り」と偶像」では考古資料と民俗資料の共同展示が実現するなど、プロジェクトはゆとりと活発化していった。

博物館業界内に留まらず、周辺分野との協力的体制づくりも模索された。特に、博物館共通のテーマの一つでもある「学校との連携の強化」は重視されていたが、文化施設と教育機関の具体的な交流例は意外に乏しく、互いの業務内容への知識・理解も不足していた。そこで、学芸員会に教員を招くといった実践的な試みが始まり、学芸現場での学校関係者との議論が活発化。学校向けの博物館案

内冊子」さあ、博物館へ行こう」をはじめ、「松本まるごと博物館ウォッチングQ&A総合ガイド」など数種の冊子が新たに作成されるなど、「市内一丸」への基盤が整備されていった。

こうした取り組みは、「市民学芸員の養成」という大がかりなプロジェクトへと発展している。06年度以降は重要施策として実施され、すでに各館で実際にボランティアなどに当たる「博物館サポーター」を輩出している。従来のボランティアグループや「友の会」組織とともに、「市の文化を、行政と市民が一体となって支える」という理想的な図式が整いつつあるのだ。

「ミュージアムICT」を導入ポータルサイトで構想を体現

一方、インターネットを通じた情報発信にも積極的に取り組んできた。04年頃から、「市のホームページをもっと使いやすく」「特に博物館情報が理解しにくい」という声が寄せられていたことを受け、市内全域の博物館を紹介するサイトを構築する計画が持ち上がった。当時の市のIT基本戦略の中に「デジタルミュージアム構想」が含まれていたこともあり、市内の博物館をネットワークする「松本まるごと博物館ポータルサイト」設置への気運が高まったという。

07年に本格的なサイト構築が始まった。しかし、館によって職員のパソコン操作のスキルはまちまちで、中には日常業務の中でほとんど利用していない館もあった。中核施設となった松本市立博物館が調整役を務めることになったが、多数の館が足並みを揃えるのは容易なことではなかったという。

公開する収蔵品情報に含まれる個人情報取り扱いなど実務的な課題、市民参加性の確保という企画上の課題など、クリアすべきハードルも少なくなかった。特に、開設後の各館の使いこなしの面で、大きな差が生じることは確実視された。

こうした問題を解決するために、博物館専用で開発された「ミュージアムICT」の導入を決定し、システムに組み込まれた各種ウェブツールを活用することで、各館が可能な限り容易に情報発信できるよう基盤整備が図られた。

『松本まるごと博物館』という明確なコンセプトのもと、中核館・参加館がそれぞれに努力を傾けた結果、構想を体現するポータルサイトが完成した。開設後は、更新間隔が開くと問い合わせの電話があつ



中核館の松本市立博物館

松本まるごと博物館ポータルサイト

<http://www.matsu-haku.com>

●問い合わせ先:

松本市立博物館 電話0263-32-0133